

令和5年度 地域に飛び出せ大学生！

おかやま元気！集落研究・交流事業 取組概要一覧

地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業とは？

おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む大学を支援する制度です。

令和5年度は7大学14研究室が取り組みました。

目次

- 1 津山市上加茂地域(知和地区) × 新見公立大学(高杉研究室)
- 2 笠岡市六島 × 岡山学院大学(平野研究室)
- 3 新見市草間 × 新見公立大学(長宗ゼミ)
- 4 新見市土橋 × 新見公立大学(柳迫研究室)
- 5 備前市神根本地区 × 新見公立大学(松田研究室)
- 6 真庭市二川地域 × 岡山理科大学(黒田研究室・大藪研究室)
- 7 矢掛町江良集落 × 岡山大学(教育推進機構)
- 8 西粟倉村大茅地区 × 岡山理科大学(小田研究室)
- 9 久米南町下鞆地区 × 岡山大学(資源管理学ユニット)
- 10 久米南町上弓削地区 × 岡山大学(資源管理学ユニット)
- 11 美咲町大併和地区 × 岡山県立大学(関根研究室)
- 12 美咲町南和気地区 × 美作大学(有岡研究室)
- 13 吉備中央町旧高富小学校区 × 就実大学(薬学療法設計学研究室)
- 14 吉備中央町豊野地区 × 岡山県立大学(穂苅研究室)

1. 津山市上加茂地域(知和地区) × 新見公立大学(高杉研究室)

趣旨・目的

高杉ゼミは昨年度の活動を引き継ぎながら、「アクションリサーチ」として実践と研究を融合させた取組を行い、上加茂地区の地域活性化につながる取組を企画・実施・評価することで、学生の実践研究能力を高めることを目的とする。学生は上加茂地区での地域活動に携わることで地域アセスメント能力を高め、卒業研究のテーマをブラッシュアップすることを目指す。上加茂地区は、学生の視点から既存の地域活動を改良し、新しい地域活動の開発を目指す。

主な取組

住民との交流

地域づくり研修会や認知症捜索訓練への参加や稲刈り体験、晩御飯作りなどを通じて地域住民と交流し、地域ニーズの把握に努めた。

ウォーキングクイズラリー

物見地区で毎年行われている、ウォーキング大会を学生がアレンジして、物見地区の名所をチェックポイントとし、学生が作ったクイズを出して健康づくりの啓発を行った。

ちわDIYプロジェクト-龍のボード制作-

知和のシンボルを作ることを目標に、昨年度に続き令和5年度の干支である「龍のボード」を製作し、住民の手形を押すアートイベント「インクで遊ぼう」を開催した。

アンケート調査・卒業研究

今年度の活動に対する住民の意見や感想を集めるとともに、学生への要望などを調査した。また、4年生が卒業研究として知和の「地域おこし協力隊」の取組と地域ニーズをマッチングするための調査を行った。

成果

NPO 法人スマイルちわが開催した「地域づくり研修会」や「認知症捜索訓練」に参加することで、上加茂地区の生活・福祉に関するニーズと利用できる社会資源について把握することが出来た。

ウォーキングクイズラリーでは、ウォーキングに学生が作ったクイズを加えることで、学生と地域住民と楽しく交流することが出来た上で、健康づくりに対する意識の向上に寄与した。ちわDIYプロジェクトでは、コミュニティデザインの方法を用いて、知和のシンボルとなる「龍のボード」を作ることが出来た。このボードはスマイルちわの情報掲示板の横に掲示され、地域の結束をアピールすることが期待される。更にこの取り組みは干支にまつわるアートを毎年作り続けることで継続的な地域活性化を図ることができること等のメリットをもたらした。



2. 笠岡市六島 × 岡山学院大学(平野研究室)

趣旨・目的

笠岡諸島最南端にある「六島」の特産品の研究をおこなう。本研究室の学生が、六島の農作物や水産物を調査し、地域特有の文化や自然環境に触れる。また、地域住民との密接な交流を通じて、地域の魅力や価値を再発見し、特産品の新たな活用法を模索する。このプロジェクトでは、六島の豊かな食文化を反映した「島御膳」の開発が重要な目的である。

主な取組

ステップ1 資源調査

現地での滞在を通じ、六島の自然と文化に触れる機会を得た。学生たちは地域の歴史や伝統、自然環境の中で生活し、地域の魅力と課題を直接体感した。



環境整備活動

ステップ2 環境整備活動

地域の環境整備の一環として、六島の公共スペースや歴史的な場所で草刈りを体験した。地域の方と共に活動して、地域の方の思いを知り、交流を深めた。



カフェの開店

ステップ3 カフェの開店

地域活性化を目的として、空き家を活用したカフェ「絶景カフェ南の島のノブ」を開店した。SNSを用い、観光客を誘致した。鳥取県、広島県、兵庫県、大阪府、栃木県からの来店があった。



島御膳の開発

ステップ4 「島御膳」の開発

六島の特産品を活用した「島御膳」の開発に取り組んだ。地元の方と共に、伝統食「さつま」の調理を行った。地元の食材を用いたレシピを考案し、島の食文化を「再解釈」することで、地域の新たな魅力を創出した。



島御膳

成果

六島における一連の取り組みは、「地域活性化に向けた新たな魅力の創出」という成果を生んだ。資源調査では、学生たちが地域の歴史や自然環境を体験し、地域の魅力と課題を直接学び、地域に対する醸成を深めた。環境整備活動により、地域住民の方の活動を知り、訪問者に快適な環境を提供したいという思いを共有した。また、カフェ企画は SNS を活用して観光客を魅了し、「関係人口」の創出に助力した。そして、本プロジェクトの目的である六島の魅力を詰め込んだ「島御膳」の開発を行った。今後は、「島御膳」を「関係人口」や「観光客」の方へ提供し、伝統や文化の継承および六島の魅力発信に寄与する。

3. 新見市草間 × 新見公立大学(長宗ゼミ)

趣旨・目的

元気集落に登録している新見市内地域運営組織と新見公立大学地域共生推進センター SA (学生・アシスタント: 地域貢献活動を担う学生組織) の連携事業の一環として、新見市のカルスト台地に位置する草間地区の①新たな特産品の開発及び、②学生発案によるアグリツーリズム推進方策の検討を目的に活動を行った。

主な取組

草間地区の新たな特産品の開発

新見市内の製菓店と連携し、草間地区の農産品を活かした「ももゼリー」、「瓶ケーキ」、「そば粉クッキー」、「そば粉クレープ」を開発し、レシピ集として提案を行った。



お祭りへの出店・特産品の販売

開発した特産品を学生自ら調理を行い、地域内外のお祭りにて販売を行った。



来訪者調査の実施

地域のお祭りの来訪者へ調査を行い、来訪前後の周遊先や個人属性について分析を行った。

アグリツーリズムのツアー企画

来訪者調査を踏まえ、地域の方とアグリツーリズムツアーの周遊ルート等を検討するワークショップを行った。



成果

特産品の開発では、新見市内の菓子店の指導を受けながら、地域産品を用いた4つの特産品を完成させることができ、お祭りの来訪者にも好評をいただくことができた。次年度は特産品の商品化を目指す。アグリツーリズムの推進においては、地域への来訪者調査結果を踏まえて、草間地区の周遊ルートの検討やカルスト山荘の宿泊体験を行い、学生発案でのツアーの企画・検討を行うことができた。次年度はモニターツアーの実施を企画している。

4. 新見市土橋 × 新見公立大学(柳迫研究室)

趣旨・目的

地域行事への参加を通じて、地域課題の把握・発見を行う。また、学生と住民とのコミュニケーションを図り、中山間地域での暮らしの実態と地域及びそこで暮らす住民の強みなどを理解し、地域課題解決に向けた解決策の模索と地域活性のためのニーズについて考える。

地域における学生の活動が円滑に行われるよう、地域行事にはその準備段階から参加し、学生と地域住民との関係形成を図るとともに、地域の魅力とその地域で暮らす人の魅力について SNS などを通じて広報を行う。

主な取組

住民との交流

土橋地区の夏のイベントである「ほたる祭り」への参加を行った。イベントの準備、運営に携わることで地域住民との交流を行った。

萱刈・花植え活動への参加

環境保全活動への参加を通じて、豊かな自然環境の再発見とそこで暮らす人の地元への愛着を感じることができた。

地域踏査

各活動参加の際や、機会を見て地域踏査を実施。地域の魅力や課題について考えた。

フィールドマップの作成

地域住民との交流や地域活動への参加、地域踏査を踏まえフィールドマップの基礎を作成した。



成果

地域運営組織の代表者との詳細な打合せを行い、地域住民と学生の関係形成を図ることから始めた。こうした、打合せにより、私たちの研究室が地域運営組織の組織図に明記していただくこととなり、学生たちが主体的に活動を展開するための基盤地を構築することができた。また、地域全体で学生を受け入れる環境をつくることで、学生が交流イベントや環境保全活動等へ参加しやすい環境となり、学生の主体的な活動につながり、地域への愛着形成と地域活動の活性化に寄与することができた。

地域の交流イベントやその他の活動を通じて、地域住民の声を聞き、地域へ何度も足を運び歩くことで、フィールドマップの作成や地域のニーズと学生のやりたいことのマッチングを行うことができた。

5. 備前市神根本地区 × 新見公立大学(松田研究室)

趣旨・目的

本研究室は2022年度より神根本地区との集落研究・交流事業を行っている。昨年度は、学生からの目線で神根本区を捉え、地域の特性を踏まえて情報発信するために住民と協働で季節の資源マップ作りに取り組んだ。また、高齢者の健康寿命を延ばすことや住み慣れた場所で暮らし続けることに対して、世代を超えた交流の在り方の提案を行い、ポッチャを通じて交流を図った。それらを通し、交流事業2年目である2023年度は1) 資源マップを活用した地域外の観光客へのアピールと資源マップの継続的な作成を通じて地域の強みの可視化の強化を図る 2) いこいの広場(旧神根幼稚舎)の定期的な活用による地域住民同士の関係構築をする機会を増やし、住民同士の連帯感の強化と住み慣れた場所で暮らし続けることができる取り組みの検討を主な目的として交流事業の継続に取り組む。

主な取組

1) 地域の強みの視覚化を強化

①資源マップ(秋)の設置活動

県内8カ所に昨年度作成した資源マップの作成主旨説明及び設置依頼を行い、広く神根本地区についての情報発信を行った。

②資源マップ(春&初夏)の作成

住民の意見を反映しながら、春と初夏の地域マップを作成し、完成させた。

③神根獅子舞奉納(秋祭り)の動画作成

無形文化財である神根獅子舞の奉納の様子を写真や動画に収め、学生視点でのショートムービーの作成、住民への上映を行った。



2) SNS を利用した地域活動の情報発信

神根本地区公式ラインを作成し、活動報告等住民への様々な情報発信に活用した。



3) いこいの広場の定期的活用

住民からの意見を反映させ、今年度は介護予防の要素を取り入れながら企画、活動を行った。

成果

昨年度作成した資源マップを実際に県内外の観光客が訪れる場所へ設置することで神根本地区の強みについて広く情報発信した。また、地区で予定されている様々な活動や学生企画の活動報告について神根本地区公式 LINE を通じて住民に情報発信できるように SNS 使用方法を周知した。今後、様々な地域活動で活用していくべく、新たな地域活動の情報発信ツールの準備を進めた。昨年度より継続して行っている「いこいの広場」での学生企画では、地域住民同士の関係構築の機会となるよう心掛け、集いの場としての機能を強化した。

6. 真庭市二川地域

× 岡山理科大学(黒田研究室・大藪研究室)

趣旨・目的

二川地域の活性化と伝統野菜「土居分小菜」の保存と伝承を目的とし、
(1) 小学生対象の夏休み開催イベント「わんぱく学校」での企画提案と実施
(2) 二川の伝統野菜「土居分小菜」の保存と伝承および流通方法
(3) 二川地域およびその周辺地域の特産品の認知度を高めるための京橋朝市への出店
を研究のテーマとした。

主な取組

「学びを取り入れた遊び」をテーマとしたイベントの提案と企画

併設されている「ふるいち二川マンガ館」の漫画本を利用し、クイズ形式で理科や歴史に関する知識を学習してもらった。また、火起こしの理科実験をおこなった。これらを通して、二川地域の児童との交流を図った。



二川の伝統野菜「土居分小菜」の保存と伝承および流通方法

他地域での伝統野菜の伝承と栽培・販売等の取り組みに関するインタビュー調査を実施した。これらの結果をもとに、土居分小菜の保存と伝承の方法、および加工品とその流通方法について生産者に提案した。



二川地域およびその周辺地域の特産品の認知度を高めるための京橋朝市への出店

二川地域とその周辺地域の特産品の認知度を高めることを目的に、京橋朝市に出店した。来場者に自分たちが選択した特産品に触れてもらい、その美味しさと地域の魅力を知ってもらうことをおこなった。

成果

「わんぱく学校」では「学びを取り入れた遊び」をテーマにイベントを実施し、地域の児童との交流を図った。併設されている「ふるいち二川マンガ館」の漫画本を利用したクイズ形式での理科や歴史の学習、火起こし実験を体験してもらうことで、その教科に興味をもってもらえたと考える。

二川の伝統野菜「土居分小菜」の保存と伝承および流通方法の研究では、高知県潮江地域、兵庫県赤穂市東浜荘地域、長崎県長崎市で地域野菜を生産している農家を訪問し、栽培現場の見学とインタビュー調査をおこなった。これらの調査結果を踏まえての土居分小菜の伝承の方法等についての提案を二川地域の生産者におこなった。京橋朝市での二川地域およびその周辺地域の特産品の販売では、実際にお客にその商品を手に取ってもらい、地域の魅力を広報することができた。

7. 矢掛町江良集落 × 岡山大学（教育推進機構）

趣旨・目的

矢掛町江良地区では、少子高齢化が進み、地域活動の担い手の減少や、住民の元気な暮らしを継続させていく事に関する課題意識も抱えている。そのような状況の中、多数継続している伝統祭事も含め、地域活動を継承していく戦略に関する調査や議論、並びに住民の暮らしに関するニーズ調査や議論を目的とする。SDGsの課題解決とそのためリーダーシップ戦略を探究している大学院生が、江良地区のニーズに沿って課題解決の研究プロジェクトを立ち上げ、地域住民と協力しながら地域課題の解決に取り組む。

主な取組

伝統的な慣習（祭事）を継承するまちづくりの開発

江良地区での伝統祭事に関わる神社仏閣等を中心に、学生が地域の方々とともに歩き、伝統祭事についての情報を収集した。また、住民の負担等の課題意識や、伝統祭事の整理、簡略化も議論されてきたことなどをヒアリングした。継承するまちづくり開発に関する議論は、未発達であることがわかったため、いくつか戦略を提案し、「輝け！江良元気会」のメンバーと意見交換会を行った。



地域住民のウェルビーイングの推進

芋ほりや子ども食堂、児童・生徒向けの活動に学生が参加し、地域住民のウェルビーイングに関して情報収集を行った。こういった活動をはじめ、住民が集うサロンが区内3か所で行われるなど、区内での繋がりの方は展開されており、留学生を含め大学生との定期的な交流も図っている。ただ、住民の暮らしが変化する中で、より詳しい地域住民の認識調査が必要であることを実感し、ヒアリング調査や座談会の場等が最適であると結論付けた。



成果

・伝統的な慣習（祭事）を継承するまちづくりの開発

江良地区では伝統祭事の整理、簡略化なども議論されていた。しかし、継承するまちづくり開発やその戦略に関する議論は、未発達であることがわかった。この実態を踏まえ、継承していく方向性について、「輝け！江良元気会」のメンバーと意見交換できた。提案としては、史跡めぐりツアーの企画・広報・実施を、大学生や地区の中高生も交えて行うことが挙げられた。まずは地区外に住む日本人向けに、顕在する史跡について地区の人々から学んで巡るコースやガイドの方法等について、企画を立てることを提案したい。ゆくゆくは、外国人向けの拡大も見込まれる。ツアーの実施に伴って起こりうるリスクや課題、対応策も、事前に検討すべきことを地区との共通認識とした。

・地域住民のウェルビーイングの推進

地域住民の繋がりを意識した多くの行事が、すでに開催されている。ただ一方で、住民の暮らしの変化に応じた更なる人との繋がりと精神的なニーズの重要性が確認でき、地区の住民や、「輝け！江良元気会」のメンバーと意見交換できた。提案としては以下のような事を挙げたい。①地域活性化へどのように参画したいか等、住民のニーズや認識についてヒアリング調査を行う、②行事や子供たちの活動、大学生との交流イベント等の様子をSNSで発信、③地区の中高生たちが自らの将来を考えることに寄り添うことを目的とし、大学生や留学生が交流し、ありがたい将来の姿を考える機会にしよう。

8. 西粟倉村大茅地区 × 岡山理科大学(小田研究室)

趣旨・目的

①大茅区有文章の解読、②小水力発電の効率向上、③鳥獣害対策、④棚田の防除、ドローンの活用、以上の大茅地区の課題に対して、情報工学を中心とした技術を寄与し、課題解決の方向性、具体策の提案に繋げる。

主な取組

大茅区有文書の解読サイト (よってたかって大茅区有文書)の開発

本システムでは、昨年度に開発した機能に加えて、古文書の一覧、古文書の詳細情報、ニュース一覧、ニュースのアップロード、以上の機能と画面を追加で開発し、実用化に向けて検討を行った。

鳥獣害対策システムの検討

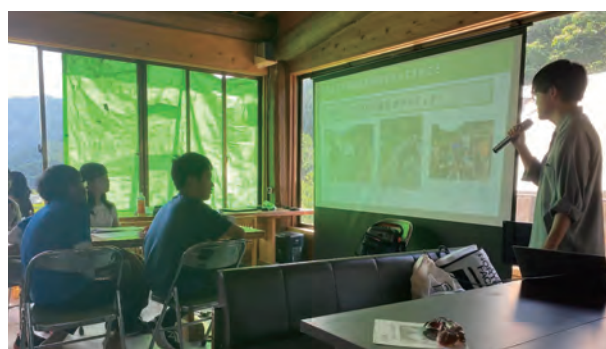
今年度は、大茅地区に出没する害獣である鹿を対象として、画像認識に基づいて鹿を認識するシステムと、鹿の忌避音を出す鹿忌避装置について開発した。

小水力発電機の除塵器の改良

除塵器の改良について検討するために、大茅地区に設置されている小水力発電機までの水路をシミュレーションシステムで再現し、発電に影響を与える水流のシミュレーションを実施した。

農薬散布ドローンの検討

大茅地区の棚田の複雑な地形で行動が可能なドローンについて検討を行い、機体と制御系を設計した。



成果

昨年度に続き、情報工学を中心とした技術を用いて地域課題の解決を目指すシステムの開発・検討を行った。情報工学の応用により、地域の活性化や課題解決に有益な進展が見られた。

さらに、昨年度からの継続的な取り組みにより地域の関係者との密接な交流があり、地域課題の解決や活性化に寄与した。

9. 久米南町下柵地区 × 岡山大学(資源管理学ユニット)

趣旨・目的

下柵地区では、昔から貴重な水資源を有効活用のために、水番体制で平等かつ効率的に配分してきた。近年、農業者の高齢化と減少に伴い、水番による配水作業の効率が低下している。一方で当地区では、移住定住や新規就農をすすめる、新たに農業生産に取り組む主体が増加してきている。将来にわたって農業生産が継続できる資源管理体制の構築を検討する。

主な取組

水利管理作業の実態調査

下柵地区内では、9つのため池からなる12水系を1つの水利組合で管理している。水利組合から水番として委託されている7名中6名にインタビュー調査を行い、水管理作業の実態を把握した。水番は、ため池の栓を抜き、水路整備後に各水田に入る水量を調整し、水田ごとに水位を調整する事が主な作業であり、5月から8月の間に行っている。年間作業回数は、降水量により異なるが令和5年度は、平均12.3回/人であった。



地域で開催されているイベントへの参加

地域内で実施された、農作業ワークショップ、餅つき大会、正月用お飾りづくりワークショップに参加した。日本人学生に加え、留学生も一緒に参加し、国際的な交流が実施できた。



成果

下柵地区での水番の課題は、少数の水番の長期間作業への従事、作業のマニュアル化が行われていない事による特定少数の個人へのノウハウの集中、耕作者減少に伴う耕作面積の減少による水利組合の収入減少、の3点であることが明らかとなった。マニュアル化と作業分担が容易な作業から作業分担を行い、徐々に地域内でノウハウを共有していき、現在の水番の作業量緩和と報酬削減による水利組合の経営状況改善が期待できる。作業分担の実現には、耕作者の水管理作業への参加意向調査が必要である。

イベントへの参加では、学生に“第2の故郷でできたようだ”との感想が多く、今後の交流に期待できる。

10. 久米南町上弓削地区

× 岡山大学(資源管理学ユニット)

趣旨・目的

令和3・4年度と2年間継続して久米南町上弓削地区で研究・交流事業を実施してきて、互いに良い関係性を構築できた。地域内の各活動の担い手が高齢して行く中で、本事業様な外部人材との関係を維持していく方法を検討する。

主な取組

地域資源維持活動への参加

地域内で行われている地域資源維持活動(花壇の手入れ)や農作業に実際に参加し、外部人材である大学生の役割を実感した。また、昨年度の事業で作成したのぼりのお披露目会を実施した。



上弓削産ゆずを利用した商品の販売と地域のPR

昨年度に引き続き、岡山大学農学部で実施されている収穫祭において、上弓削地区内で栽培されているゆずを利用し商品の開発(ゆずバスソルト・ゆず茶)と販売を実施し、久米南町上弓削地区のPRを行った。



留学生との交流

岡山大学の留学生(ベトナム人3名)と上弓削地区を訪問し、地域住民とのグローバルな交流を実した。また、留学生に日本農村の現状と課題を学習してもらった。



成果

昨年度に引き続き、久米南町上弓削集落にて交流事業を実施する事ができ、地域と研究室の結びつきが強化され、た地域外でのPR活動も実施できた。

また、今年度は初めて留学生が参加しグローバルな交流を実施できた。特にそば打ちの体験は非常に好評であり、これからの国際交流の資源としての活用可能性が示唆された。

11. 美咲町大坪和地区 × 岡山県立大学(関根研究室)

趣旨・目的

本研究は、美咲町大坪和地区の地域活性化とグローバル化に寄与するため、アクションリサーチ型のアウトリーチ研究*を推進することを目的とする。令和5年度の取り組みでは、大学生が地域おこし協力隊と連携し、オオハガ・ローカルツーリズムを展開し、地域観光の促進を目指す。同時に、特命アンバサダー(学生観光大使)を活用し、広報戦略的に地域の魅力をSNS等を通じて発信する。更に、英文マップやグッズなどを制作して、海外からのビジターに対応する。

【具体的な3つの実施内容・方法】

- Explore (見つける) 地元住民および地域おこし協力隊と連携し、大坪和地区でワークショップを開催
- Connect (伝える) 特命(学生)アンバサダーをPR担当として導入し、地域の魅力やワークショップの様態をSNSで積極的にグローバルに発信
- Cultivate (つむぐ) 「地域の魅力」を言語化・可視化するために、観光マップやグッズを制作し、これを県内外およびグローバルに展開

*アウトリーチ研究は、大学生を主体とする次世代の若者が自治体や関連団体と連携しながら、地域の魅力を積極的に探求し、その成果を言語化・可視化するアクションリサーチ型の取り組みである。これにより、地域活性化やグローバル化を促進し、特に観光事業などを通して地域の魅力を引き立てることを目指す。

主な取組

Explore

- ・体験型ワークショップ実施(1): 棚田米稲刈り
- ・体験型ワークショップ実施(2): そば打ち
- ・研究型ワークショップ実施(3):
美咲町(大坪和地区)の野草調査

Connect

- ・地元食材PR活動: 特命アンバサダー卵料理対決
- ・広報戦略活動: Instagramでの英語情報発信や、地元の物産センターでの活動紹介

Cultivate

- ・地域交流活動: コミュニケーション促進ツールとしてのネクストラップ作成
- ・グローバル推進活動: チューリッヒ芸術大学一行へ英文観光マップとグッズの提供成



成果

さまざまなワークショップの開催や観光グッズの作成、それらの広報戦略的な発信を通じて、「地域の魅力」を言語化・可視化することができた。次世代に継承可能な(大学生目線の)地域資源の掘り起こしによって、美咲町大坪和地区の活性化に寄与することができた。

12. 美咲町南和気地区 × 美作大学(有岡研究室)

趣旨・目的

中山間地(南和気地区)での子育ての現状と地域の課題を把握し、コミュニティ協議会の運営を支援することによって、地域の活性化を図る。

主な取組

地域行事の支援・地域住民との交流

保育園の芋苗植え、小学校の田植えなど子どもたちと交流を持った。また、納涼祭ではお化け屋敷を運営し、幅広い層の住民に好評であった。



南和気スタンプウオークの企画・運営

地域の実行委員の方と、企画から運営までを行い、地域内外の多くの方と交流した。



笠岡市六島の視察と協議会への提案

昨年までの活動地を訪問し、地域活性化の取り組みをまとめ、情報発信について提案した。

喫茶メニューの開発

農村型宿泊施設「南和気荘」でカフェ「学校のパン屋さん」のオープンを支援した。フィールドワークを行い、南和気の特産物を使った喫茶メニューを開発し提案した。



成果

活動を通して、子どもから高齢者まで幅広く地域の方々と交流する機会を得た。これまで行事の開催にマンパワーの不安を感じていたが、企画段階から学生が参加することによって、納涼祭や南和気スタンプウオークを開催することができた。その中で地区内外の参加者と交流することができ、他地区の方からも活性化の協力要請があった。

また、2024年1月13日に「学校のパン屋さん」カフェのオープンを迎えることができた。地域の方にも応援していただき、喜んでいただくことによって充実感のある結果を得ることができた。

これらの活動を通して、南和気地域の抱える課題や現状を把握するとともに地域の特色を知ることができた。そして、地域の方と連携して学生がアイデアを出したり、発言や行動をすることで、相乗効果が発揮され、学生自身の成長にもつながったと考える。

13. 吉備中央町旧高富小学校区 × 就実大学(薬学療法設計学研究室)

趣旨・目的

高齢化率の高い中山間部等の医療過疎地域に住まう住民の方々を対象とした薬学的観点からの健康維持増進、ならびに、薬学部学生を対象とした将来の医療従事者として地域医療の一端を担うという使命感と倫理観の醸成を目的として、地域の高齢者サロンである“ももカフェ”にて健康寿命の延伸をテーマとした大学生考案のイベントを継続的に実施し、その効果について検討を行うとともに、地域の子どもたち、あるいは、子育て世代向けに薬の適正使用を目的とした薬教育を実施する。

主な取組

高齢者サロン“ももカフェ”における健康増進イベントの企画・運営

学生が企画立案した認知症予防のためのクイズ大会やボールを使った健康体操を実施した。また、管理栄養士を招き、骨を丈夫にする栄養についての講習会を開催した。

地域の夏祭りにおけるブース出展

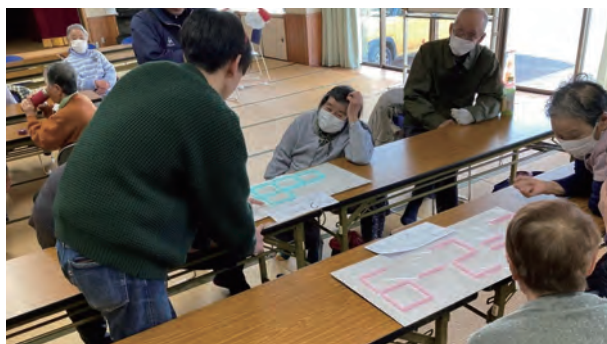
円城なつものがたり2023にて、参加した地域住民の方に向け、公衆衛生意識向上の目的でアロマソープづくり体験ブースを出展した。

小学生を対象としたお薬実験教室の開催

円城地区の学童に通う児童を対象に、科学への関心を高めることと、薬の適正使用に繋げることを目的にこども実験教室を実施した。

栄養状況に関するアンケート調査

ももカフェ利用者を対象に「食事状況調査」を行い、結果を学生の卒論としてまとめた。また、本取組みに関して学生が学会発表を行った。(日本社会薬学会第41年会(東京))



成果

R4年度に引き続き、地域の高齢者サロンにて大学生の視点やアイデアを盛り込んだ健康増進に繋がる活動を実施するとともに、参加者の栄養摂取状況調査を行い、その調査結果をもとに管理栄養士と連携して簡易栄養指導を実施するなど、地域の高齢者の健康づくりに貢献することができた。

また、今年度は高齢者のみならず、地域の夏祭りへの参画や小学生を対象とした薬の実験教室を開催するなど、地域全体との交流に拡げて活動することができた。さらに成果を全国的な学会で発表した。

14. 吉備中央町豊野地区 × 岡山県立大学(穂苅研究室)

趣旨・目的

本研究の目的は、農村集落において文化財としての価値が定まらずに地域社会から放てきされた空き家の活用をめぐる調査と実践から、将来に向けた持続可能な農村のあるべき姿をみちびき出すことにある。前年度は、地域住民を対象としたオーラルヒストリー調査により、豊野地区をとりまく暮らしや生業、環境形成とかつての名主の家＝小出庄屋とがどのように結びついていたのかを把握し、その結び目に地域づくり資産としての小出庄屋の価値を見出した。今年度は、小出庄屋の活用に向け、空き家となっている建物の片付け・清掃、実測調査、図面作成を実施した。

主な取組

空き家の掃除・片付け

長屋門、母屋、酒蔵2棟、土蔵2棟で構成される現小出庄屋の敷地の内、母屋、酒蔵1棟、土蔵1棟は、山側からの湿気等で一部が朽ちて崩壊している。また、各建物内は前居住者の生活用品、家財道具、酒造りの道具が散乱、屋外は草木・雑草が繁茂している。今年度は母屋を中心に、掃除・片付け（分別作業と不用品の処分）を行なった。



専門家指導による空き家の実測調査

岡山県内を中心に空き家の再生等を手がける建築士・片岡八重子氏（ココロエー級建築士事務所・代表）に指導を依頼し、小出庄屋の実測調査を行なった。



実測図面作成・活用案の検討

実測調査に基づき小出庄屋の実測図面を作成した。また、前述の建築士から適宜助言を得ながら建物の活用案を検討した。

成果

今年度は以下の3点の成果が得られた。

- ・母屋に放置・散乱していた生活用品、家財道具を外に運び出し、不用品については処分を行なった。
- ・建築士指導のもと掃除・片付けをした母屋部分の実測調査を行い、図面を作成し、建物の特色や空間構成を把握した。
- ・作成した図面をもとに、小出庄屋建物の活用案を作成した。

一方、建物を覆うように繁茂する裏山の木々の伐採、重量のある大型の酒造業や農業関係道具類の移動や処分等専門事業者の助けが必要な作業タスクもあり、建物の状態悪化に対する掃除・片付けを含む十分な措置がとれていない。建物の修理改修費用の確保と同時にこうした問題への対策を講じることが喫緊の課題である。